

地質調査所では、研究発表会を年6回以上開催しています。そのうちの1回は地質調査所研究講演会として、主に一般の方々を対象に東京で行っています。当所の職員をはじめ所外の方にも講演していただき、プロジェクト研究や社会的に注目されているテーマ等について、最新の研究成果や情報を公表しています。本欄では、9月13日に開催された研究講演会の概要、トピックスあるいは会場の雰囲気等について紹介しようと思います。また今後の予定についてもできるかぎり最新の情報をこのコーナーで提供したいと考えています。

(地質調査所研究発表会運営委員会)

研究講演会「地球温暖化問題へのアプローチ」を開催して

東京での2回目の研究講演会を9月13日に石垣記念ホール(三会堂ビル)で、(財)日本産業技術振興協会と共催した。当日は、朝から台風による雨が激しく、参加者の出足が心配されたが、定刻の午後1時には満席となり、講演テーマへの関心の高さが感じられた。講演内容は、地質ニュース9月号に発表されているので、講演会の雰

囲気について報告する。

講演会は、日本産業技術振興協会 清水専務理事および地質調査所 小川所長の挨拶の後に開始された。

最初の講演は、通商産業省の「地球再生計画」作成スタッフとして、また工業技術院の地球環境問題研究テーマを総括されている富田地球環境技術企画官が、通産省における取り組みを簡明に解説された。その中で、地球環境問題が産業公害問題と根本的に異なるのは、国際的な視点の不可欠であることを強調された。小川所長は、地球温暖化を地球環境システムの中で位置付けられ、地質調査所の研究テーマターゲットを地球システムの解明、環境影響評価、対策技術開発の三つの分野から論じられ、その総合化の重要性が主張された。地球物理学者としての見識ある講演内容はアンケートでも好評で、講演時間の短かったのが惜しまれた。東京大学理学部 米倉教授の特別講演では、第四紀学の研究成果を基に、地球規模での気候変動の原因とその変化量について詳しく解説された。最近の第四紀学研究成果の分かりやすい紹介は、聴衆に大きな感銘を与えたことがアンケート結果にも示されていた。海洋地質部の川幡博士は、太平洋における物質循環テーマを、白嶺丸によるホットな調査研究成果として報告された。

休憩後の特別講演では、名古屋大学水圏科学研究所の松本教授が IGBP (地球圏-生物圏国際共同研究計画) のコア プロジェクト PAGES (過去の気候変動研究計画) について解説された。松本教授は、地質調査所在職中に東京湾堆積物の鉛同位体年代測定法の実用化によって、環境汚染の定量的評価研究に新境地を開拓された。そして、現在は同位体地球化学の手法を駆使して、地球規模での環境変動研究の国際的なリーダーとして活躍されている。豊富な経験とユーモアを交えての講演には、多くの聴衆が魅了された。海洋地質部の茅根博士は、二酸化炭素固定法としてサンゴ礁生態系に注目し、独自の人と自然に



写真1 開会の挨拶をする地質調査所小川所長。



写真2 講演する東京大学理学部の米倉教授。

優しい科学技術の開発を目指している。茅根博士のサンゴ礁研究は、地球環境問題が脚光を浴びる前から、米倉教授の指導の基に行なわれてきた。そして、サンゴ礁の基礎的な調査研究データから展開したエコファクトリー計画は、アンケートの感想で最も好評であった。大嶋首席研究官は、第四紀の環境変動に対応しながら形成されてきた日本列島の動植物相の生息環境因子から環境変動の定量的評価を試み、地球温暖化の規模とその影響量を予測した。そして、地球環境変動を停止固定させることより、変化する環境で生きぬくことの重要性が主張された。閉会の挨拶をされた佐藤次長は、自然環境についての歴史的な視点からの認識と、地球システムとしての環境変動の理解の上で対策技術が講じられなければならないと締め括られた。

講演会テーマが製造業が直面する二酸化炭素排出削減問題に直結するためか、地質調査所とはこれまで馴染みの薄かった第二次産業関係の方々が、参加者の約半数を占められていた。地質調査所の研究成果が、予想外の分野で活用されることに驚きを禁じ得なかった。また、多くの参加希望申し込みを会場座席数の制約で、お断わりせざるを得なかったことを、紙上を借りて深くお詫びする。

会の開催に当たっては、特別講演を引き受けてくださった米倉教授、松本教授に深く感謝の意を表す。また、会場でのアンケートにご協力頂いた方々に御礼申し上げますと共に、過分の好意的な感想に力付けられ、指摘された欠点は改善するなどして、研究発表会の充実した運営に事務局一同努力することを誓い、今後一層のご支援を願うものである。

(山口秀樹・研究発表会運営委員会事務局)

—参加者の感想より—

◆ 地球温暖化問題に関しては、各官庁関連の研究機関、学会、業界団体等での講演会、研究発表会等が開催されてきたが、それらのなかではもっとも実態に即し、今後の考えるべき方向を正しく提言するという意味で、最高レベルの講演会だったと思う。(建設)

◆ CO₂排出等の問題は、現代工業化に伴う問題のみ考えるべきでなく、地質学視点が必要と考えてましたので、貴所の今度の発表会は、タイミング良く、また、興味のある内容でした。今後の問題としては、地質学的時間の単位での変化を、人間の社会的尺度としての時間の変化、1000年、100年単位との関係付け、植生による人為的コントロール等々、さらに調査、研究の進展を希望します。(鉱業)

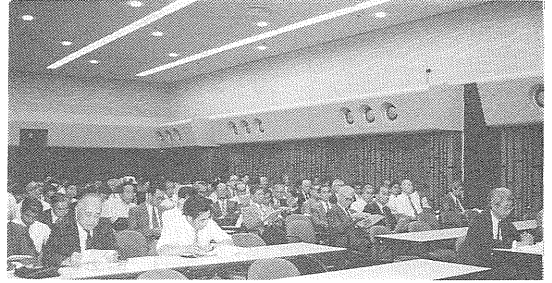


写真3 講演会場を埋める聴衆。

◆地球環境問題へのアプローチは、様々な方法があることを教えられました。企業サイドの姿勢はどうしても防御あるいはビジネスという観点にとらわれすぎるので、このような地理学的、地質学的な切入は新鮮に思えます。また、サンゴ礁がこんなに活性状態があるものとは思えませんでした。もっとPRをして地質調査所の研究成果を世間に知らせ、活用してもらうことを考えるべきではないでしょうか。(金融)

◆ 日常、新聞やテレビの報道を見ているとある量の炭酸ガスの放出＝一定温度上昇のような錯覚を起こしてしましますが、講演会に出席して、そのようなメカニズムは未だよく解っていないこと、地球温暖化のための有効な対策を講ずるためには、その前に地球自然システムの正しい理解が必要であるということがわかり、大変有益でした。(地質コンサル)

◆ サンゴ礁・エコ・ファクトリーの話し、興味を持ちました。サンゴ礁・エコ・ファクトリーで有効な造成法が見出だされれば、海洋建設機械の開発や海洋ロボットの開発等、日本の得意な分野での国際貢献も可能になるのでは……。 (サービス)

平成4年度研究講演会予告

平成4年6月12日

石垣記念ホール(東京)

—ガイアの贈物：地熱エネルギー開発(仮称)